

2025年度
京都大学大学院生命科学研究科
博士後期課程編入学学生募集要項

【研究科の理念とアドミッション・ポリシー】

今日、生命科学は、人類の未来を切り開く先端科学として大きく変貌・発展しつつあります。本研究科は、このような世界的状況に対応して、世界最高水準の研究拠点の形成と次世代の生命科学をリードする人材養成を目的とし、平成11年にわが国初の生命科学系の独立研究科として発足しました。本研究科は、既存の諸分野における先端領域を真に融合しながら、生命の基本原則を構成する「細胞・分子・遺伝子」を共通言語として、多様な生命体とそれらによって形成される環境を統合的に理解し、生命の将来や尊厳にかかわる新しい価値観を作り出す独創的研究と教育を展開しております。

今後、ますます高度化・複雑化する生命科学に対する社会からの多様な要請に応えるべく、本研究科では、このような研究科の理念に共鳴し、修士課程での教育によって得た広い学識と高度な専門知識、研究推進能力及び学術研究などにおけるより高い倫理性と責任感を持つ学生を広く求めています。特に、生命の尊厳を十分に理解しながら、既存の枠組みにとらわれない総合的・先端的な生命科学を築き上げる開拓精神に富む学生を歓迎し、以下のような人材の養成を目指します。

1. 生命の基本原則を追求・発見し、世界最高水準の新しい生命科学を推進する研究者。
2. 地球環境保全と人類の健康・福祉・幸福を目指し、民間を含む多様な研究機関で先導的な役割を担う研究者・高度技術者。
3. 多彩な生命現象全般を広く理解し、教育や産業・報道・行政を通じて先導的な役割を担う教育指導者・高度実務者。
4. 高度な論理的説明能力とコミュニケーション能力を持ち、国内外に広く自らの考えを発信し、いろいろな分野で先導的な役割を担う研究者・教育指導者・高度技術者・高度実務者。

入学試験では、国際的なコミュニケーションに必須である英語の基礎学力の判定と、修士課程等での自身の研究成果のプレゼンテーション、さらに、判断力、思考力、コミュニケーション能力、主体性、倫理観を評価する口頭試問からなる学力考査を実施し、総合的に合格者を決定します。

I. 募集専攻(研究分野)及び募集人員

生命科学研究科は、2 専攻 37 研究分野で構成されています。

本年度募集する専攻(研究分野)及び募集人員は次のとおりです。研究分野の内容については本要項 7 頁から 11 頁までに記載しています。

また、本研究科ホームページ(<https://www.lif.kyoto-u.ac.jp/j>) にも研究分野の内容等について掲載しています。なお、**受験できる分野は1つに限られていますので、出願する前に当該研究分野の教員に研究内容等を必ず問い合わせてください。**

専攻	研究分野	募集人員
統合生命科学専攻 (募集：15 分野)	細胞周期学、細胞認識学、遺伝子特性学、全能性統御機構学、 生体情報応答学、微生物細胞機構学、分子応答機構学、分子代謝制御学、 生態進化学、分子情報解析学、神経発生学、細胞動態生化学、 多元生命科学、微細構造ウイルス学、老化感染制御学	若干名
高次生命科学専攻 (募集：11 分野)	分子動態生理学、分子病態学、生体システム学、システム機能学、 高次生体統御学、染色体継承機能学、脳機能発達再生制御学、 ゲノム損傷応答学、生体動態制御学、生体適応力学、メカノセンシング生理学	若干名

II. 出願資格

次のいずれかに該当する者、あるいは 2025年 3月 31 日を以って該当する見込みの者

- (1) 修士の学位又は修士(専門職)若しくは法務博士(専門職)の学位を有する者
- (2) 外国において、本学大学院の修士課程又は専門職学位課程に相当する課程を修了した者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、本学大学院の修士課程又は専門職学位課程に相当する課程を修了した者
- (4) 我が国において、外国の大学の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程(本学大学院の修士課程又は専門職学位課程に相当する課程に限る。)を修了した者
- (5) 国際連合大学(国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和 51 年法律第 72 号)第 1 条第 2 項の規定によるものをいう。次号において同じ。)の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 外国の学校、上記(4)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準(昭和 49 年文部省令第 28 号)第 16 条の 2 に規定する試験及び審査に相当するものに合格した者であって、本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者(平成元年文部省告示第 118 号)
 - ① 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
 - ② 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- (8) (1)に掲げる者と同等以上の学力があると個別の出願資格審査により本研究科において認めた者で、24 歳に達したもの(※6年制課程の大学を卒業した者を含む。)

III. 出願資格審査

出願資格(6)(7)(8)により出願を希望する方には出願に先立ち資格審査を行いますので、所定用紙を本研究科の WEB サイト(<https://www.lif.kyoto-u.ac.jp/j/>)から入手のうえ下記の出願資格審査必要書類を2024 年 12 月 6 日(金)までに出願書類等提出先へ提出してください。なお、出願資格(6)の場合には、下記の⑤が更に必要です。審査の結果は、2024 年 12 月下旬に申請者宛郵送により通知します。

以前に出願資格審査を申請され出願資格が認められた方は申請不要です。出願の際にその旨お申し出ください。

●出願資格審査必要書類

①出願資格審査申請書 【出願資格(6)(7)(8)】	(所定用紙)
②成績証明書 【出願資格(7)(8)】	最終出身学校が作成し厳封したもの。
③業績等調書 【出願資格(7)(8)】	専攻分野に関連する研究業績等について、客観的知見等を簡明に記載してください(所定用紙)。
④研究従事内容 証明書又は 推薦書 【出願資格(7)(8)】	所属機関等が作成し厳封した研究従事内容証明書(所定用紙)。 ただし、6年制課程の大学を卒業した方、又は 2025 年 3 月 31 日までに卒業する見込みの方で同証明書の発行を受けることができない場合には、研究指導者等が作成し厳封した推薦書(所定用紙)を提出してください。

⑤博士論文研究 基礎力に関する書類 【出願資格(6)】	博士論文研究基礎力審査に相当する審査 (Qualifying Examination) を受けた機関の長による証明書類に次の 2 点を添付してください。 (1) 博士論文研究基礎力審査に相当する審査の方法及び合格基準を示す資料 (2) 出願者が履修した博士前期に相当する課程に係る資料 (科目一覧、科目概要) 及び成績証明書
⑥審査結果通知用封筒 【出願資格(6)(7)(8)】	長形 3 号封筒(120mm×235mm)に申請者の氏名・通知を受ける住所・郵便番号を明記し 320 円切手 (特定記録) を貼付したものを提出してください。

IV. 入学検定料

入学検定料：30,000円 (本学大学院修士課程修了見込み者は不要です)

振込期間：2024 年 12 月 23 日 (月) ～ 2025 年 1 月 15 日 (水) (期間外取扱不可)

振込方法：

- ・金融機関から振り込む場合

お近くの金融機関等にて次の口座にお振り込みください。

(ATMからの振込も可。ただし、インターネットでの振込は不可)

銀行名	支店名	預金種目	口座番号	受取人氏名
三井住友銀行	京都支店	普通	8089428	国立大学法人 京都大学

- ・「京都大学 EX 決済サービス」サイトで納入する場合

(<https://www3.univ-jp.com/kyoto-u/let/>) にアクセスし、所定の手続きにより納入してください。
支払い方法について不明な点があれば、以下に問い合わせください。

「京都大学 EX 決済サービス」ヘルプデスク

TEL 03-6837-7944 受付時間 10:00～18:00

問い合わせ受付期間：2024 年 12 月 23 日 (月) ～ 2025 年 1 月 15 日 (水)

※手数料 (650 円) は出願者負担となります。

※必ず「納入者名」が出願者本人の氏名であることを確認のうえ納入願います。

(出願者以外の名義で納入された場合は、願書を受理できない可能性があります。)

注意事項：

- (1) 必ず「振込依頼人名」が出願者本人の氏名であることを確認のうえお振り込み願います。

(出願者以外の名義で振込された場合は、願書を受理出来ない可能性があります。)

- (2) 振込手数料については出願者の負担となります。

- (3) 振込後、次の処理をしてください。

- ・金融機関から振り込んだ場合は、ATM等から発行されるご利用明細書等の、振り込んだことが確認できるもの (本紙) を「入学検定料振込金受付証明書等貼付台紙」の所定位置に貼付して提出してください。その際には、控えとして写しを取っておくようにしてください。

- ・「京都大学 EX 決済サービス」サイトで納入した場合は、当該サイトから発行される「収納証明書」を印刷して所定の位置に貼付して提出してください。

- (4) 一旦納入された入学検定料は、理由の如何に関わらず返還しません。

- (5) 平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災、平成 28 年 4 月に発生した熊本地震、平成 30 年 7 月に発生した平成 30 年 7 月豪雨、平成 30 年 9 月に発生した北海道胆振東部地震、令和元年 10 月に発生した令和元年台風19号、令和 2 年 7 月に発生した令和 2 年 7 月豪雨による災害救助法適用地域において、主たる家計支持者が被災し、罹災証明書等を得ることができ
る場合は、入学検定料を免除することがあります。該当する方は、1 月 6 日(月)17時までに、
出願書類等提出先 (6 頁) へお問い合わせください。

V. 出願書類

出願書類の所定用紙は、全て本研究科の WEB サイト(<https://www.lif.kyoto-u.ac.jp/j/>) より入手できます。WEB サイトからダウンロードし、各自で A4 サイズの用紙に印刷して出願書類として使用してください。

① 入学願書・写真票・受験票	(所定用紙) 必要事項を記入のうえ、上半身脱帽正面向きで出願前 3 か月以内に撮影した写真 2 枚を所定の枠内に貼付してください。
② 研究テーマとその要旨	これまでに行ってきた研究の課題名とその要旨を、A4 判 1 枚程度に横書きで記述してください。(現所属・氏名も記載のこと)
③ 学業成績証明書	出身大学大学院が作成し厳封したもの。ただし、出願資格審査において出願資格が認定された者は不要です。
④ 修了(見込)証明書	出身大学大学院が作成したもの。ただし、6 年制課程卒業生等は出身大学学部が作成した卒業(見込)証明書を提出してください。
⑤ 卒業証明書	出身大学(学部)のもの。
⑥ 英語力検定試験スコアの <u>原本</u> (試験実施機関が文書として発行したもの)	当研究科が指定する英語力検定試験のスコアを願書とともに提出してください。 ※当研究科が指定する英語力検定試験について 当研究科では、英語の総合的な基礎学力を判定するものとして、下記の英語力検定試験を指定します。以下の英語力検定試験において、当研究科が公式と認める証明書の「原本」(注 1)を願書とともに提出してください。 ・ TOEFL iBT(会場受験型及び自宅受験型(Home Edition)) (以下、TOEFL iBT) ・ IELTS(アカデミック・モジュール) (以下、IELTS) ・ TOEIC(Listening & Reading Test) (以下、TOEIC(L&R)) ※スコア提出の詳細は、次頁の「英語力検定試験スコアの提出にあたっての注意事項について」を参照してください。
(注 1) 2023 年 4 月以降に受験した TOEIC (L&R) については、デジタル公式認定証をダウンロードした PDF のプリントアウトをもって原本とすることができます。 ただし、表示されている QR コードが正しく認識できること。	
⑦ 入学検定料振込金受付証明書等貼付台紙(本学大学院修士課程修了見込み者は不要)	(所定用紙) ・金融機関から振り込んだ場合は、ATM 等から発行されるご利用明細書等の、振り込んだことが確認できるもの(本紙)を「入学検定料振込金受付証明書等貼付台紙」の所定位置に貼付して提出してください。 ・「京都大学 EX 決済サービス」サイトで納入した場合は、当該サイトから発行される「収納証明書」を印刷して所定の位置に貼付して提出してください。
⑧ 受験票送付用封筒	長形 3 号封筒(120mm×235mm)に出願者の住所・氏名・郵便番号を明記し、320 円切手(特定記録)を貼付してください。
⑨ 出願承諾書	(所定用紙) 官庁・企業等の有職者が休職等の形で在籍のまま入学したい場合には、所属長又は代表者の出願承諾書を提出してください。 在職中の方で出願承諾書を提出されなかった方は、入学試験に合格しても退職しなければ入学を許可しません。

英語力検定試験スコアの提出にあたっての注意事項について

1. 各自で TOEFL iBT、IELTS、または TOEIC (L&R) の申し込み手続きを行い、受験してください(受験に必要な費用は自己負担)。

2. 次のア、イ、ウのいずれか1つの原本(注2)を、出願時に提出してください。
 ア. TOEFL iBT の「Test Taker Score Report(受験者用スコアレポート)」
 イ. IELTS の「Test Report Form(公式成績証明書)」
 ウ. TOEIC(L&R)の「Official Score Certificate(公式認定証)」(注2)
3. TOEFL iBT、IELTS、TOEIC(L&R)をあわせて複数回受験している場合、そのうちいずれか1回の受験結果のスコア原本のみ提出してください。複数のスコアを提出した場合は、すべてを無効として扱います。
4. いずれの英語力検定試験についても、2023年1月14日から2025年1月13日までの期間に受験取得したスコアに限り受け付けます。(本入学試験の出願期限の2日前までに取得したスコアを有効とします。)
5. TOEFL iBTのスコアは、Test Date スコアを受け付けます。(My Best スコアや、団体試験用のTOEFL ITPのスコアは受け付けません。)
6. 上記テストのスコアについて、不正が判明した場合は失格とし、入学後であっても、過去に遡って合格を取り消します。
7. 出願時にスコア原本の提出が間に合わない場合は、出願時に願書の指定の箇所にその旨を記載し、試験当日に当研究科が指定する時刻までに試験実施本部へスコア原本(注2)を持参して直接提出してください。ただし、指定日時までにスコア原本(注2)が提出されない場合は、提出スコアの点数を0点として扱います。
8. いずれかの英語力検定試験のスコアを提出した後に、より良い点数のスコアを再提出、または別の英語力検定試験のスコアを再提出する等により、提出後のスコアを差し替えることは認めません。
9. 提出されたスコア証明書等の原本については、願書受理期間以降に順次返却いたします。

(注2) 2023年4月以降に受験したTOEIC(L&R)については、デジタル公式認定証をダウンロードしたPDFのプリントアウトをもって原本とすることができます。ただし、表示されているQRコードが正しく認識できること。

VI. 出願手続

出願者は、出願書類等提出先(6頁)あてに出願書類を一括して提出してください。郵送する場合には「書留」とし、封筒の表に「生命科学研究科博士後期課程編入学願書」と朱書してください。

VII. 願書受理期間

○ 窓口での受理：2025年1月14日(火)～2025年1月15日(水)

窓口での受理時間は9時から12時までと13時から17時まで(厳守)とし、郵送による場合は期間前でも受け取りますが、1月15日(水)17時必着とします。

ただし、入学検定料の納付を完了し、ATM等から発行される「ご利用明細書(本紙)」等の振込みが確認できるものを貼付した「入学検定料振込金受付証明書等貼付台紙」が提出されない場合は、願書を受理しません。(※海外から出願する際には郵送期間に留意してください)

※願書受理後、受験票等は1月24日までに発送する予定です。1月29日までに届かない場合にはご連絡ください。

VIII. 学力検査日程

2025年2月7日(金)に京都大学構内(京都市左京区)で下記の時間に実施します。

時 間	科目	方法等
13時00分～	専門	プレゼンテーション及び口頭試問(英語可)

◇詳細については、受験票送付時に通知します。

IX. 合格者発表

2025 年 2 月 28 日(金) 17 時頃に生命科学研究科掲示板(医学・生命科学総合研究棟(G 棟)1 階) 及び本研究科ホームページに掲載するとともに、学力検査の全てを受験した方全員に可否の通知書を郵送(簡易書留) します(電話による問い合わせには応じません)。

X. 入学料及び授業料

入学料 282,000 円(予定)(本学大学院修士課程から進学する方は不要)

授業料 前期分 267,900 円 (年額 535,800 円)

※入学料及び授業料は予定額のため、改定されることがあります。

※入学時及び在学中に改定された場合には、改定時から新入学料及び新授業料が適用されます。

XI. 注意事項等

- (1) 出願書類受理後は、出願事項の変更は認めません。また、いかなる場合においても入学検定料の払戻しは行いません。
- (2) 身体に障害等(学校教育法施行令に定める身体障害の程度)があり受験上若しくは修学に際し配慮を必要とする方は、出願に先立ち本研究科教務掛に相談してください。
- (3) 募集要項ならびに出願書類の書式は、全て本研究科の WEB サイト(<https://www.lif.kyoto-u.ac.jp/j/>)から入手してください。WEB サイトからダウンロードし、各自で A4 サイズの用紙に印刷して出願書類として使用してください。
- (4) 定年や異動等により、教員及び研究内容が変更となる可能性もありますので、研究科のホームページで最新情報を確認の上、出願前に指導を希望する教員と十分に相談してください。

〔個人情報の取り扱い〕

出願書類に記載された個人情報は「京都大学における個人情報の保護に関する規程」に基づいて取り扱います。

1. 出願書類に記載されている氏名、住所その他の個人情報については、①入学者選抜(出願処理、選抜実施)、②合格発表、③入学手続業務を行うために利用します。
2. 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。
3. 出願書類に記載されている個人情報は、入学者についてのみ、①教務関係(学籍管理、修学指導、教育課程の改善等)、②学生支援関係(健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等)、③学納金徴収に関する業務を行うために利用します。
4. 上記の各種業務での利用にあたっては、一部の業務を本研究科より当該業務の委託を受けた業者(以下「受託業者」という。)において行うことがあります。この場合、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、個人情報の全部又は一部を提供します。

●出願書類等提出先

京都大学生命科学研究科教務掛

〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町

TEL : 075-753-9225. 9222. 9424

FAX : 075-753-9229

Mail : 150kyomu@adm.lif.kyoto-u.ac.jp

2024 年 10 月

京都大学大学院生命科学研究科

<https://www.lif.kyoto-u.ac.jp/j/>

研究分野とその研究内容 — 2024年10月1日 現在

(2025年度募集するもの)

応募に当たっては、研究科のホームページで最新情報を確認の上、各分野の指導を希望する教員と必ず直接コンタクトを取り、十分に相談してください。

●統合生命科学専攻

◆遺伝機構学講座

単細胞生物から多細胞生物における様々な現象に注目し、細胞周期、染色体の複製分配、維持、修復等の細胞内で起こる事象に加え、細胞増殖、形態形成、がん化、老化等、より高次の生命現象の分子メカニズムの解明について理解を深める。

研究分野	電子メールアドレス	
	教員	研究内容
細胞周期学	aoki.kazuhiro.6v@kyoto-u.ac.jp	
	青木 一洋	細胞の情報処理（細胞は細胞外の情報をどのようにして、どれくらい認識することができるのか）や運命決定（細胞分裂や分化、細胞死などはいつどのようにして決定するのか）の動作原理を実験と数値計算、統計手法を用いて定量的に解明する。
	後藤 祐平	

◆多細胞体構築学講座

多様な生命体の多細胞体制構築の基本概念と原理をその多細胞体（組織・器官あるいは個体）の機能発現との関連について理解を深める。

研究分野	電子メールアドレス	
	教員	研究内容
細胞認識学	tauemura@lif.kyoto-u.ac.jp	
	上村 匡 *	動物の発生や老化を調節する栄養環境への適応機構や共生微生物の役割を、マルチオミックスなどを用いて研究する。感覚入力と行動を結ぶ神経回路の働きを、遺伝学的・光遺伝学的手法及びイメージングを用いて解明する。
	碓井 理夫	
	服部 佑佳子	

◆細胞全能性発現学講座

植物細胞の全能性の基本原理の探求と応用分野への展開を目指し、種々の生物ゲノム解析を通して、その普遍性ならびに多様性を探索するとともに、植物細胞の全能性を分子レベル、細胞レベル、個体レベルで解析し、植物の多様な機能の基本システムに関して考察する。

研究分野	電子メールアドレス	
	教員	研究内容
遺伝子特性学	tkohchi@lif.kyoto-u.ac.jp	
	河内 孝之	モデル生物として研究基盤を整備したゼニゴケを用いて植
	安居 佑季子	物の主要な環境因子である光の認識やシグナル伝達、分裂
	吉竹 良洋	組織の維持と分化、配偶体世代の性分化と性決定の機構を研究する。特にクロマチン動態と遺伝子発現制御の観点から解析を進める。
全能性統御機構学	nakano.takeshi.6x@kyoto-u.ac.jp	
	中野 雄司	植物成長制御の分子機構について、植物細胞の分化・分
	宮川 拓也	裂・伸長の制御と光合成の制御の両輪によって司られてい
	山上 あゆみ	るという観点に立ち、主に分子細胞生物学と植物ホルモンを中心としたケミカルバイオロジーに基づく研究手法を用いて解明を目指す。最終的には、得られる成果の環境破壊・食糧不足解決などへの活用による社会還元を目指す。

*は2025年3月末で定年退職予定の教員を示す

◆応用生物機構学講座

多様な自然環境の変化に対応して生物が獲得した情報応答機構を、個体、器官、組織、細胞および分子のレベルで解明し、その応用原理に関する研究を行う。

研究分野	電子メールアドレス	
	教員	研究内容
生体情報応答学	nagao.masaya.7e@kyoto-u.ac.jp	
	永尾 雅哉* 神戸 大朋	亜鉛・鉄・銅・マンガンといった必須微量ミネラルの吸収・代謝、ホメオスタシス維持、生理機能に関して、分子・細胞・個体レベルで解析し、健康社会の実現につながる知見を提示することを目指す。
微生物細胞機構学	tyamano@lif.kyoto-u.ac.jp	
	山野 隆志 辻 敬典	主に微細藻類をモデルとし、生命の生存戦略と光合成維持の原理を分子レベルで解明する。特に、CO ₂ や窒素などの栄養センシングとシグナル伝達機構、CO ₂ 濃縮機構、光と炭素・窒素代謝の制御機構、相分離オルガネラの構築・維持・継承の制御機構の分子基盤を解明するとともに、光合成の改変や新たな有用物質生産を見据えた代謝工学へと展開する。
分子応答機構学	takane@lif.kyoto-u.ac.jp	
	片山 高嶺 加藤 紀彦	腸内細菌と宿主の共生を支える分子基盤を解明するとともに、食や健康に還元するための応用展開を行う。特に、宿主が腸管内に産生する糖質（母乳オリゴ糖やムチン糖鎖）の資化能を有する腸内細菌に着目し、それらの酵素や遺伝子を解析することで、腸内細菌と宿主の共生・共進化を考察する。

◆環境応答制御学講座

生物の、内的・外的（生物的・非生物的）環境に対する応答に関与する情報素子の構造・機能相関の解析、外的環境に応答した発生・分化過程の調節機構の解析などをおして、生物の多様な環境応答機構の基本システムを解明する。

研究分野	電子メールアドレス	
	教員	研究内容
分子代謝制御学	taraqui@lif.kyoto-u.ac.jp	
	荒木 崇 山岡 尚平 井上 佳祐	1. 成長相の転換（被子植物の花成とコケ植物の配偶子器分化開始）を調節する分子機構に関する研究 2. 日長応答機構の多様性に関する研究 3. 花成ホルモン（フロリゲン）の輸送と作用の分子機構に関する研究 4. 生殖系列と配偶子の分化を調節する分子機構に関する研究 5. 生活環の調節機構の進化に関する研究
生態進化学	toju.hirokazu.4c@kyoto-u.ac.jp	
	東樹 宏和 藤田 博昭	多様な環境への適応放散を経て生物多様性が創出されるしくみを、生物種間の相互作用を鍵として解明する。野外調査とゲノム科学・情報科学を融合し、分子・細胞レベルの現象から個体群・群集・生態系の階層における生命システムの駆動原理を読み解く。以下をはじめ、多様な生物の生態と進化に統一的理論で取り組む。 1. 植物の環境適応と共生細菌・真菌叢 2. 魚類の生理・生態と腸内・水圏微生物叢の動態 3. 無脊椎動物と共生・寄生生物の共進化史

*は2025年3月末で定年退職予定の教員を示す

分子情報解析学	yoshimura@lif.kyoto-u.ac.jp
吉村 成弘	細胞増殖、がん、シグナル応答、自然免疫、等における未
桑田 昌宏	解明のメカニズムを、相分離等の物理化学・生物物理学の 視点および技術で解明する。 1. 細胞分裂期におけるタンパク質リン酸化サイクルと細胞 周期の進行との関係 2. 細胞内膜オルガネラの「かたち」を決める分子要因と 物理要因の統合的理解 3. 抗ウイルス自然免疫システムにおける非膜オルガネラ の機能解明

◆生体構造解析学講座

多細胞生物の組織が発生過程を経て協調的に機能し、修復を繰り返して維持されるには、構成する細胞個々に内在するプログラムと細胞間シグナル応答の連携が不可欠である。これらの制御機構を神経系や免疫系組織など様々なモデルシステムを用いて、細胞、オルガネラ、分子のレベルで研究する。

研究分野	電子メールアドレス
	教員 研究内容
神経発生学	kengaku@icems.kyoto-u.ac.jp
見学 美根子	哺乳類の脳皮質形成と神経回路構築のメカニズムを理解する。特に遺伝的プログラム、力学的細胞外環境、回路入力による神経活動が及ぼす影響を、先端イメージング技術、微小力学計測技術、ゲノム情報解析技術を用いて明らかにする。
細胞動態生化学	jsuzuki@icems.kyoto-u.ac.jp
鈴木 淳	細胞機能（現在は細胞膜動態に注目）に重要な遺伝子を同定するために各種スクリーニングをベースとしたアプローチにより解析を行っている。細胞の基本原則を明らかにし、そこで得られた知見を病気の理解、治療戦略、また新しい研究技術の開発に結びつけることを目指す。
多元生命科学	ytaniguchi@icems.kyoto-u.ac.jp
谷口 雄一	膨大な種類の分子により形成・制御される細胞やゲノムなどの生物システムの動作原理を理解する。生物学や物理学、化学、コンピュータ科学、エンジニアリング、情報学などの様々な分野の知見を基に、新規のテクノロジーの開発と新たな生命科学分野の創造に挑戦する。

◆細胞機能動態学講座

ウイルスの増殖機構やウイルス感染に対する宿主応答機構に関して、ウイルス学的手法や分子/細胞生物学的手法ならびに形態/構造学的手法をもちいて、分子・細胞・個体レベルでの研究を展開する。

研究分野	電子メールアドレス
	教員 研究内容
微細構造ウイルス学	t-noda@infront.kyoto-u.ac.jp
野田 岳志	インフルエンザウイルス、エボラウイルス、ラッサウイルス、新型コロナウイルスなど、ヒトに対して病原性を示すRNAウイルスの細胞内増殖機構を明らかにし、新たな治療法を確立することを目指す。
杉田 征彦	
中野 雅博	
村本 裕紀子	
老化感染制御学	nakadai@infront.kyoto-u.ac.jp
中台(鹿毛) 枝里子	老化および感染のメカニズムに立脚して、食や常在微生物を介した制御方法を構築したいと考えています。線虫 <i>C. elegans</i> やマウスをモデル生物として、常在微生物叢と宿主の老化や感染・炎症との相互作用のメカニズムを明らかにするとともに、老化と密接に関わるミトコンドリア品質管理やエピジェネティクスなどの生命現象を理解し、健康寿命を延伸する手法の開発を目指します。
谷本 佳彦	

●高次生命科学専攻

◆認知情報学講座

独自の多重染色超解像顕微鏡IRISや生細胞蛍光単分子イメージングを用い、生体分子が働く姿やそのダイナミクスを直接捕捉することに挑戦する。細胞運動や組織構築の分子基盤や分子標的薬の作用機構を可視化解明することによって、生命機能の基本原理解明から疾患治療法のシーズ探索まで追求する。

研究分野	電子メールアドレス	
	教員	研究内容
分子動態生理学	watanabe.naoki.4v@kyoto-u.ac.jp	
	渡邊 直樹	1. 蛍光単分子イメージングを用いたシグナル・薬理学研究
	山城 佐和子	2. 分子流動・細胞内密度勾配の新しい形成メカニズム
	宮本 章歳	3. メカノ受容体としてのアクチン線維と接着の分子基盤
		4. キナーゼ阻害薬による逆説的がん増殖の防御と創薬
		5. 多重超解像顕微鏡IRISで解く神経ネットワーク改変機構

◆体制統御学講座

生体は、細胞、組織、器官、個体という異なった階層から構成され、これらの統御を通じて体制の構築と維持を図ることが可能となる。この機構を明らかにすることを目的とし、細胞の増殖・分化や死、細胞間の相互作用、組織や器官の形成について、時間軸を考慮しながら、個体構築と恒常性維持におけるメカニズムの基本原理解明を分子・細胞・個体レベルで追求する。

研究分野	電子メールアドレス	
	教員	研究内容
分子病態学	tomoya.kitajima@riken.jp	
	北島 智也	マウス卵母細胞の減数分裂における染色体動態を主にライブイメージングを用いて定量的に解析し、卵子に正しく染色体が分配されるメカニズムを解明する。
	minoru.takasato@riken.jp	
	高里 実	1. ヒト iPS 細胞を用いた腎臓・尿路系オルガノイドの作製
		2. ヒト 初期発生における細胞運命決定メカニズムの解明
		3. ヒト臓器の成熟化機構の解明と制御
	fumiaki.obata@riken.jp	
	小幡 史明	寿命の短いショウジョウバエを利用し、各種栄養素や腸内細菌の生理機能を研究し、食餌による動物の健康寿命制御機構について解明する。
	takefumi.kondo@riken.jp	
	近藤 武史	発生・器官形成が正確に進行し、個体として自己組織化するメカニズムを、1細胞ゲノミクスやイメージング、ショウジョウバエ遺伝学などの技術を用いて明らかにする。
	yumi.konagaya@riken.jp	
	小長谷 有美	マウス腸オルガノイドのライブイメージングや腸管上皮組織の多重染色、シングルセルの定量的な解析により腸管上皮幹細胞の運命を決定する分子メカニズムを解明する。

◆高次応答制御学講座

高次生命体は、遺伝子の情報によって自律的に制御されると同時に外界に対して常に対応できる体制を整えている。この結果、遺伝情報及び応答機構の異常は、癌や自己免疫疾患、成人病を発症するに至る。種々の因子による細胞の増殖機構、免疫の自己・非自己の識別機構等の生体の基本的な応答機構、一方、癌、免疫疾患、遺伝病、成人病等の生体の異常機構を解析し、生命体の応答制御の基本原理を追求する。

研究分野	電子メールアドレス	
	教員	研究内容
生体システム学	kimura.ikuo.7x@kyoto-u.ac.jp	
	木村 郁夫	1. 食と腸内代謝産物による栄養認識受容体を介した恒常性維持機構の解明
	池田 貴子	2. 性ステロイドホルモンによる即時性反応を介した高次生命機能への影響
システム機能学	igaki@lif.kyoto-u.ac.jp	
	井垣 達吏	細胞競合および細胞間コミュニケーションを介した組織の
	菅田 浩司	恒常性維持機構とその破綻によるがん発生・進展機構、また
	榎本 将人	た個体老化の制御機構を、ショウジョウバエ遺伝学と生体内イメージングを中心としたアプローチにより研究する。

◆高次生体統御学講座

多細胞生命体の構築において、細胞同士の接着が必須である。細胞間接着のシステミックな制御機構、シグナル統御機構を追求する。組織・器官の形成機構、および細胞間接着の破綻による様々な疾患の発症メカニズムを解明することにより、高次生命体を構築・維持する基本原則を理解する。また、創薬開発の基盤を構築し、新たな治療戦略の確立を目指す。

研究分野	電子メールアドレス	
	教員	研究内容
高次生体統御学	oda.yukako.6r@kyoto-u.ac.jp	
	小田 裕香子	培養細胞とマウスをモデルとし、細胞間接着の制御による
	小川 慶悟	多細胞生物の構築・維持・修復機構の解明と炎症・がんなどに対する創薬開発を行う。

◆生命科学教育学・遺伝学講座

生命科学教育学・遺伝学講座は、科学英語教育学と、染色体継承機能学から構成される。染色体継承機能学研究室では、減数分裂を細胞生物学的に探求する。

研究分野	電子メールアドレス	
	教員	研究内容
染色体継承機能学	carlton.petermark.3v@kyoto-u.ac.jp	
	CARLTON, Peter	減数分裂期における染色体動態の制御が、正常な精子と卵子を生み出す分子メカニズムを、高解像度顕微鏡技術と線虫遺伝学を駆使して明らかにする。

◆システム生物学講座

顕微鏡イメージング、光遺伝学、ケミカルバイオロジー等の先端技術駆使して、生体が認識する情報を培養細胞から動物個体まで多次元的に明らかにするとともに、その情報を元に数理モデルを構築し、生命の情報処理と応答の原理をシステムとして理解する。

研究分野	電子メールアドレス	
	教員	研究内容
脳機能発達再生制御学	imayoshi.itaru.2n@kyoto-u.ac.jp	
	今吉 格	1. 神経幹細胞の増殖・分化制御機構の解析
	GUY, Adam	2. 生後脳・成体脳ニューロン新生の解析
	Tsuda	3. 遺伝子発現の光操作技術の開発
	鈴木 裕輔	4. 動物の微細行動パターンの計測・解析
	坂本 雅行	5. 遺伝子改変マウス・ウイルスベクターの開発

◆ゲノム生物学講座

ゲノム・エピゲノム情報はあらゆる生命現象の基盤であり、内因性・外因性の攪乱因子に対抗する分子機構によって維持継承されている。そのメカニズムと制御機構を明らかにし、がん、遺伝病、老化、などの破綻病態の解明、病態制御法の開発などを研究する。

研究分野	電子メールアドレス	
	教員	研究内容
ゲノム損傷応答学	yasuhara.takaaki.7r@kyoto-u.ac.jp	
	安原 崇哲	1. 様々なストレスに対する細胞応答の分子機構の解明
	牟 安峰	2. 転写と共役したゲノム修復の分子機構の解明
		3. タンパク質の液液相分離を介したストレス応答の解明
		4. 加齢性変容と疾患関連ゲノム異常発生機構の解明
		5. がんや胎児の染色体異常症などの疾患の発生機序の解明

◆高次生体機能学講座

高次生命体の形成・維持を担う生命シグナルを、ゲノム応答、細胞応答、組織応答、個体応答を含む多階層縦断的ネットワークとして捉え、それを支える分子メカニズムを探究する。さらに、ウイルスやモデル動物、生体材料などを利用して、生命シグナル制御ネットワークのダイナミズムとプラスティシティーを追究し、高次生体機能の基本原則を幅広く研究する。

研究分野	電子メールアドレス	
	教員	研究内容
生体動態制御学	tomonaga@infront.kyoto-u.ac.jp	
	朝長 啓造	1. 動物ウイルスの増殖と病原性発現機構の解明
	牧野 晶子	2. 内在性ウイルスの進化と機能に関する研究
	松郷 宙倫	3. 新規ウイルスベクターの開発と応用研究
生体適応力学	adachi@infront.kyoto-u.ac.jp	
	安達 泰治 牧 功一郎	生体組織の発生・成長・老化における細胞運命決定、多細胞組織・器官の形態形成、リモデリングによる機能的適応などにみられるマルチスケールな生命システム動態の理解を目指し、力学・数理学との融合的研究を進める。
メカノセンシング生理学	nonomura_keiko@infront.kyoto-u.ac.jp	
	野々村 恵子	感覚神経や脳を含む生体臓器におけるメカノセンシング機構に着目し、その生理的役割や疾患との関係、および発生過程の形態形成への影響について明らかにする。遺伝子改変マウスやオルガノイドを対象に、ライブイメージングやメカノバイオロジーの手法を組み合わせた解析を行う。